

静岡市子ども・子育て・若者プラン 成果指標に対する達成状況

	成果指標		2026年度 目標値	2019年度 (プラン策定時) 現状値	2020年度 実績値	2021年度 実績値	2022年度 実績値	2023年度 実績値	2024年度 実績	2025年度 実績値	達成状況	2019年度 からの 改善状況	達成状況に関する分析 (要因・課題等)	出典	担当課
基本目標 1 すべての子ども・若者の成長を支援するまちの実現【子ども・若者支援】															
施策目標 1 子どもの心身の健やかな育ちを支える環境づくり															
1	将来の夢や目標を持っていると答える 児童・生徒の割合	小学生	90.0%	84.8%	-	80.1%	80.5%	80.4%	80.4%	81.7%	未達成	未改善	目標値の達成には至っておらず、プラン策定時と比較して低下していることから、児童・生徒が将来の夢や目標を持ち、自らの生き方や社会との関わりについて考える機会を充実させていくことが課題となっている。 今後は、児童・生徒が自らの生き方や将来について考え、夢や目標を持つことができるよう、教育活動全体を通したキャリア教育の充実が図られるよう、職員への研修を行う。	全国学力・学習状況調査	学校教育課
		中学生	75.0%	68.6%	-	60.0%	24.0%	63.8%	63.4%	63.6%	未達成	未改善		全国学力・学習状況調査	学校教育課
2	自分にはよいところがあると思う 児童・生徒の割合（自己肯定感）	小学生	87.1%	84.2%	-	77.2%	61.2%	84.5%	83.8%	86.8%	未達成	改善	目標値にはわずかに達していないものの、プラン策定時と比較すると向上している。このことから、こどもの自己肯定感を伸ばす学校の取組が結果として表れているものと考えられる。 今後も、児童・生徒が自分のよさや可能性を実感し、自信を持って成長できるよう、教育活動の充実を図る。	全国学力・学習状況調査	学校教育課
		中学生	80.2%	75.8%	-	80.0%	60.0%	78.7%	83.8%	84.6%	達成	改善	目標値を達成しており、プラン策定時と比較しても大きく向上している。このことから、こども一人ひとりのよさや可能性を認め、自己肯定感を伸ばす学校の取組が結果として表れているものと考えられる。 今後も、児童・生徒が自分のよさや可能性を実感し、自信を持って成長できるよう、教育活動の充実を図る。	全国学力・学習状況調査	学校教育課
3	放課後児童クラブと放課後子ども教室の 一体的実施の校数		71校	28校	67校	69校	67校	67校	67校	67校	未達成	改善	目標値をやや下回っているが、放課後児童クラブや放課後子ども教室を設置している学校数が統廃合により減少したためである。 2025年度時点で、放課後子ども教室を実施している79校のうち、8割以上が放課後児童クラブとの一体的実施に取り組めている。	-	教育総務課
施策目標 2 知・徳・体のバランスのとれた子ども・若者をはぐくむ教育環境づくり															
4	市立園での研修実施回数		58回	57回	57回	55回	57回	55回	56回	56回	未達成	未改善	目標値にはわずかに達していないものの、静岡市教員育成指標に基づいて、保育者のキャリアステージに合わせた研修を開催し、必要な研修機会は確保できている。引き続き、保育者のキャリアステージに応じた研修の充実を図る。	-	こども園運営課
5	私立こども園、保育所に参加を呼び掛けた研修会等の回数		5回	4回	3回	2回	2回	5回	13回	45回	達成	改善	目標値を達成している。2024年度から公開保育や特別支援基礎研修等の公私合同研修を実施するとともに、2025年度の幼児教育センターの設置により私立園への情報発信や参加促進に取り組んだ結果、研修会等の実施回数が増加し、目標値を大きく上回った。	-	幼児教育・保育支援課
6	幼児期の教育から小学校教育に円滑な 接続がされていると思う小学校1年の クラス担任の割合		80.0%	58.0%	68.0%	53.9%	56.6%	61.8%	69.9%	80.2%	達成	改善	目標値を達成しており、プラン策定時と比較しても向上している。2021年度は53.9%まで低下したが、その後は上昇傾向となり、2025年度は80.2%と目標の80.0%を達成した。コロナ禍では、園と小学校の対面での引継ぎや交流の機会が制限され、幼児期の教育から小学校教育への円滑な接続が難しくなったことが、一時的な低下の要因と考えられる。 最終的な目標達成については、対面での連携が再開したことに加え、幼保小合同研修や公開保育・公開授業を継続・拡充し、参加する小学校教員が増えたことや、毎年度のアンケートを基に連携手法を改善し、幼小接続の必要性・重要性への認識を高めてきたことで、双方の教育内容やこどもの姿への理解が深まったことが要因と考えられる。 今後は、幼保小が共通理解のもとで連携・協働する「幼保小の架け橋プログラム」を開始し、小学校が悉皆参加する合同研修等を通じて、より組織的な連携を進めていく。	小学1年生の担任教諭 に対するアンケート	こども未来課
7	学校に行くのが楽しいと思う児童・生徒の割合	小学生	90.0%	87.4%	-	83.0%	80.5%	85.0%	83.0%	84.7%	未達成	未改善	目標値には達しておらず、プラン策定時と比較しても低下していることから、学校生活を楽しいと感じられない児童が一定数いることが課題となっている。 今後は、一人ひとりの児童の思いや願いを大切にしながら、こどもまんなかの学校づくりを支援する。	全国学力・学習状況調査	学校教育課
		中学生	85.0%	84.3%	-	92.0%	80.0%	79.1%	83.0%	85.1%	達成	改善	目標値を達成しているが、学校生活を楽しいと感じられない生徒が一定数いることから、引き続き、一人ひとりの生徒の思いや願いを大切にしながら、こどもまんなかの学校づくりを支援する。	全国学力・学習状況調査	学校教育課

	成果指標		2026年度 目標値	2019年度 (プラン策定時) 現状値	2020年度 実績値	2021年度 実績値	2022年度 実績値	2023年度 実績値	2024年度 実績	2025年度 実績値	達成状況	2019年度 からの 改善状況	達成状況に関する分析 (要因・課題等)	出典	担当課
施策目標3 困難を抱えた子ども・若者を支える環境づくり															
8	里親委託率		53.0%	48.5%	49.2%	42.7%	42.4%	44.9%	39.5%	43.5%	未達成	未改善	目標値には達しておらず、プラン策定時と比較しても低下している状況である。今後は、社会的養育が必要なこどもの受け皿として引き続き里親委託を推進していくため、新規里親の開拓、適切なマッチング、受託後の相談支援等に取り組む。	-	児童相談所
9	児童養護施設・里親に措置している子どもの高校等進学率		100%維持	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	達成	現状維持	目標値を達成しており、高校等への進学を希望する児童に対して、児童養護施設や里親等の関係者と連携しながら進学支援に取り組むことができている。今後も引き続き、関係機関と連携しながら、高校等への進学を希望する児童への支援に取り組む。	-	児童相談所
10	体制不備による児童虐待重大事例の発生数		0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	達成	現状維持	目標値を達成しており、体制不備による児童虐待重大事例は発生していない。今後も、関係機関と連携しながら、適切な支援体制の確保及び児童虐待の早期発見・早期対応に取り組む。	-	児童相談所
11	いじめの解消率	小学生	85.0%	80.0%	70.1%	76.5%	78.0%	76.4%	77.4%	73.0%	未達成	未改善	小学校では目標値には達しておらず、中学校では目標値を達成している。なお、いじめの解消には少なくとも3か月以上の経過確認を要するため、1月以降に認知されたいじめ事案については、年度末時点では「解消」の判断ができず、「継続」として集計されることから、解消率に影響している。今後も、いじめの早期発見・早期対応に努めるとともに、解消に向けた継続的な支援を行う。	問題行動・不登校等諸課題に関する調査	児童生徒支援課
		中学生	75.0%	71.7%	75.0%	76.0%	73.0%	69.0%	74.0%	76.0%	達成	改善		-	児童生徒支援課
12	子ども・若者相談センター（※1）における不登校改善率		68.0%	65.9%	68.6%	68.1%	60.8%	67.3%	66.1%	64.4%	未達成	未改善	目標値には達しておらず、プラン策定時と比較しても低下している状況である。今後は、市民や学校に対しての認知を高めるため、HPや学校関係者参加の説明会で広報活動を行う。	-	学校教育課
13	静岡市ひきこもり地域支援センターにおけるひきこもり改善率		61.0%	54.0%	71.4%	69.9%	67.6%	65.8%	68.8%	64.8%	達成	改善	目標値を達成している。2015年度のひきこもり地域支援センター開設当初と比較してケース対応が安定し、より高い水準でのひきこもり支援を実施できている。今後も、ひきこもり状態にある方やその家族に寄り添った支援に取り組む。	-	こども若者応援課
14	非行少年、＜犯少年の検挙・補導数（市内）		2,971件	3,391件	3,325件	2,309件	2,039件	1,812件	1,288件	1,089件	達成	改善	目標値を達成しており、プラン策定時と比較しても検挙・補導数は減少している。社会環境の変化や関係機関と連携した非行防止活動により、特に深夜はいかいによる補導件数が減少したことが要因と考えられる。今後も、関係機関と連携しながら非行防止活動に取り組む。	-	こども若者応援課

	成果指標		2026年度 目標値	2019年度 (プラン策定時) 現状値	2020年度 実績値	2021年度 実績値	2022年度 実績値	2023年度 実績値	2024年度 実績	2025年度 実績値	達成状況	2019年度 からの 改善状況	達成状況に関する分析 (要因・課題等)	出典	担当課
施策目標4 地域に愛着を持ち、すすんで行動する若者を創出する環境づくり															
15	自分が誰かの役に立っていると思う子ども・若者の割合（自己有用感）		60.0%	52.6%	-	-	-	-	-	60.1%	達成	改善	目標値を達成しており、自己有用感を持つこども・若者の割合はプラン策定時と比較して上昇している。今後も、こども・若者が自分の存在や行動が周囲の役に立っていると実感できる機会の充実に取り組む。	こども・若者実態調査	こども若者応援課
16	静岡市が好きな児童・生徒の割合		81.0%	77.6%	-	-	-	-	-	77.6%	未達成	現状維持	目標値には達していないが、プラン策定時と同水準を維持している。今後も、児童・生徒が静岡市に愛着を持てるよう、市の魅力や特色に触れる機会の充実に取り組む。	こども・若者実態調査	こども若者応援課
17	住んでいる地域の行事に参加している児童・生徒の割合（行事参加の有無）	小学生	68.0%	66.6%	-	55.6%	86.1%	52.7%	-	-	未達成	未改善	目標値には達しておらず、プラン策定時と比較しても低下している。なお、2024年度以降は本指標項目が調査票から廃止されたため、2023年度の実績値が直近の状況となっている。今後は、部活動の地域展開等を通じて、地域の活動への参加や地域との関わりの広がりが期待される。	全国学力・学習状況調査	学校教育課
		中学生	68.0%	64.3%	-	48.0%	48.0%	45.4%	-	-	未達成	未改善		全国学力・学習状況調査	学校教育課
18	ボランティア活動への参加意欲のある生徒の割合（中高）		20.0%	15.7%	-	-	-	-	-	23.3%	達成	改善	目標値を達成しており、ボランティア活動への参加意欲のある生徒の割合はプラン策定時と比較して上昇している。今後も、生徒が地域活動やボランティア活動に関心を持ち、主体的に社会参加できる機会の充実に取り組む。	こども・若者実態調査	こども若者応援課
再掲1	将来の夢や目標を持っていると答える児童・生徒の割合	小学生	90.0%	84.8%	-	80.1%	80.5%	80.4%	80.4%	81.7%	未達成	未改善	目標値の達成には至っておらず、プラン策定時と比較して低下していることから、児童・生徒が将来の夢や目標を持ち、自らの生き方や社会との関わりについて考える機会を充実させていくことが課題となっている。今後は、児童・生徒が自らの生き方や将来について考え、夢や目標を持つことができるよう、教育活動全体を通したキャリア教育の充実が図られるよう、職員への研修を行う。	全国学力・学習状況調査	学校教育課
		中学生	75.0%	68.6%	-	60.0%	24.0%	63.8%	63.4%	63.6%	未達成	未改善		全国学力・学習状況調査	学校教育課
再掲2	自分にはよいところがあると思う児童・生徒の割合（自己肯定感）	小学生	87.1%	84.2%	-	77.2%	61.2%	84.5%	83.8%	86.8%	未達成	改善	目標値にはわずかに達していないものの、プラン策定時と比較すると向上している。このことから、こどもの自己肯定感を伸ばす学校の取組が結果として表れているものと考えられる。今後も、児童・生徒が自分のよさや可能性を実感し、自信を持って成長できるよう、教育活動の充実を図る。	全国学力・学習状況調査	学校教育課
		中学生	80.2%	75.8%	-	80.0%	60.0%	78.7%	83.8%	84.6%	達成	改善	目標値を達成しており、プラン策定時と比較しても大きく向上している。このことから、こども一人ひとりのよさや可能性を認め、自己肯定感を伸ばす学校の取組が結果として表れているものと考えられる。今後も、児童・生徒が自分のよさや可能性を実感し、自信を持って成長できるよう、教育活動の充実を図る。	全国学力・学習状況調査	学校教育課

	成果指標		2026年度 目標値	2019年度 (プラン策定時) 現状値	2020年度 実績値	2021年度 実績値	2022年度 実績値	2023年度 実績値	2024年度 実績	2025年度 実績値	達成状況	2019年度 からの 改善状況	達成状況に関する分析 (要因・課題等)	出典	担当課
基本目標2　子育てに喜びや生きがいを感じることができるまちの実現【子育て支援】															
施策目標1　喜びと安心感をもって生み育てることができる環境づくり															
19	今後もこの地域（静岡市）で子育てをしたいと思う市民の割合		97.0%	96.1%	95.5%	96.2%	95.5%	93.7%	95.1%	94.9%	未達成	未改善	目標値には達しておらず、プラン策定時と比較しても若干低下しているものの、9割を超える市民が今後も静岡市で子育てをしていきたいと考えている。こうした背景には、第2子以降保育料無償化や不妊治療費助成、妊娠期から子育て期にかけた相談支援、産後ケア事業等の取組が一因になっているものと考えられる。今後も、安心して子育てができる環境づくりを推進し、市民が静岡市で子育てをしていきたいと思えるまちづくりに取り組む。	乳幼児健診時の問診	こども家庭福祉課
20	妊婦健康診査受診率（初回受診率）		99.0%	98.5%	98.5%	99.7%	99.3%	99.1%	97.9%	99.4%	達成	改善	目標値を達成している。健康診査受診票を交付する妊娠届出時に、担当の専門職が面談を通じ、公費受診の制度案内や健診受診の重要性について丁寧に説明を行うことで、高い受診率を維持している。今後も、高い受診率を維持するため丁寧な情報発信に努める。	-	こども家庭福祉課
21	乳児健康診査受診率（10か月児）		増加	96.0%	97.2%	96.6%	95.4%	97.1%	95.5%	95.3%	未達成	未改善	目標値には達していないものの、プラン策定時と同水準の高い受診率を維持している。受診時期に合わせ、対象者に健康診査受診票を郵送することで、受診勧奨を行っている。今後も、高い受診率を維持するため丁寧な情報発信に努める。	-	こども家庭福祉課
22	子育て支援事業33事業のうち認知度が50%以上である事業の割合 【就学前児童・就学児童】	就学前児童	78.0%	59.4%	-	-	-	48.5%	-	-	未達成	未改善	目標値には達しておらず、プラン策定時と比較しても低下している。2023年度実績は48.5%で、策定時の59.4%から10.9ポイント低下し、目標78.0%を29.5ポイント下回った。コロナ禍を経て対面で事業を知る機会が減少したことに加え、子育て情報の入手先がウェブサイトやSNS等に分散し、個々の事業名まで認知されにくくなった可能性がある。また、就学前期は必要な支援が短期間で変化するため、必要な時期に情報が届かなければ認知につながりにくい。利用者の年齢・関心に応じた情報発信、検索しやすい導線、健診・園等を通じた繰り返しの周知が課題である。必要な子育て支援情報を発信する「しずおかし子育てきずなLINE」事業などを活用し、今後も認知度向上に向けた情報発信を強化していく。	子ども・子育て支援に関するニーズ調査	こども未来課
		就学児童	59.4%	50.0%	-	-	-	57.6%	-	-	未達成	改善	目標値にはわずかに達していないものの、プラン策定時と比較すると向上している。2023年度実績は57.6%で、策定時の50.0%から7.6ポイント上昇し、目標59.4%まで1.8ポイントとなった。学校や放課後児童クラブ等、就学児童世帯と接点のある場を通じた周知に加え、「ウェブ等による情報取得の定着が認知度の向上に寄与した可能性がある。また、事業別に確認すると、就学児童が利用する事業の認知度は概ね50%を超えている。引き続き、更なる認知度向上に努めていく。	子ども・子育て支援に関するニーズ調査	こども未来課
23	子育て支援センターの満足度		95.0%	84.5%	98.3%	99.4%	99.1%	96.3%	98.9%	99.0%	達成	改善	目標を達成しており、プラン策定時と比較して上昇している。親子が安心して過ごせる交流の場の提供や、子育て相談、各種講座・イベント等の継続実施、利用者のニーズを踏まえた事業内容の充実により、利用者が安心して利用でき、必要な支援を受けられる環境が整っていることが要因と考えられる。今後も、利用者のニーズを踏まえた事業内容の充実に取り組む。	来館者へのアンケート	こども未来課
24	ひとり親家庭（児童扶養手当受給世帯）の子どもの高校等進学率		98.9%	97.6%	97.9%	97.0%	97.3%	98.2%	97.5%	96.0%	未達成	未改善	目標値には達していないものの、ひとり親家庭（児童扶養手当受給世帯）のうち、子どもの貧困対策学習支援事業参加者の高校等進学率だけを見ると高校等進学率は100%となっている。今後は、ひとり親家庭全体の進学率向上につなげるため、学習支援事業の会場増設など実施体制の充実を図る。	児童扶養手当現況届	こども家庭福祉課
25	ひとり親家庭（児童扶養手当受給世帯）の親の正規就業率		増加	38.8%	-	-	-	-	-	47.9%	達成	改善	目標を達成しており、正規就業率はプラン策定時と比較して上昇している。ひとり親サポートセンターやひとり親家庭相談窓口における就労支援の充実が、その一因であると考えられる。今後も、ひとり親家庭の就業支援の充実に取り組む。	ひとり親家庭等自立促進計画策定に係るアンケート調査	こども家庭福祉課

	成果指標		2026年度 目標値	2019年度 (プラン策定時) 現状値	2020年度 実績値	2021年度 実績値	2022年度 実績値	2023年度 実績値	2024年度 実績	2025年度 実績値	達成状況	2019年度 からの 改善状況	達成状況に関する分析 (要因・課題等)	出典	担当課
施策目標2　子育てと仕事の両立を支援する環境づくり															
26	保育所等の待機児童数		0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	達成	現状維持	目標値を達成している。私立幼稚園の認定こども園移行に伴う整備事業に対する補助事業を実施し、特に待機児童が発生しやすい0歳～2歳児（3号認定）の保育受入れ枠を拡充したことで、R6.4.1時点を除く各年度当初の待機児童0人を達成した。今後も、待機児童ゼロを維持するため、地域のニーズに合わせた定員枠の確保に取り組む。	-	こども未来課
27	放課後児童クラブの待機児童数		0人	86人	41人	13人	30人	64人	51人	12人	未達成	改善	目標値には達していないものの、プラン策定時と比較して待機児童数は大幅に減少している。学校との調整により余裕教室を整備するなど受入体制を確保し、受入可能人数が増加したことが待機児童数の減少につながった。今後も、待機児童の解消に向けて受入体制の確保に取り組む。	-	こども若者応援課
28	両親で子育てを行っている と答えた市民の割合（※2） 【就学前児童・就学児童】	就学前児童	57.8%	54.4%	-	-	-	57.2%	-	-	未達成	改善	目標値にはわずかに達していないものの、プラン策定時と比較して向上している。男性の育児休業取得を促す制度整備や、父親の育児参加に対する社会的意識の高まり、市の父親向け啓発事業等が、両親で子育てを行う意識・行動の広がり に寄与したと考えられる。 一方、乳幼児期は日常的なケアの負担が大きく、勤務時間や休暇の取りやすさなど職場環境の影響も受ける。今後は、啓発に加え、父親が継続的に家事・育児を担える職場風土づくりを促す取組を推進していく。	子ども・子育て支援に関する ニーズ調査	こども未来課
		就学児童	51.0%	47.0%	-	-	-	56.2%	-	-	達成	改善	目標を達成しており、プラン策定時と比較して上昇している。男性の育児休業取得を促す制度整備や共働き世帯の増加を背景に、父親が日常の家事育児や学校行事等に関わることが一般化してきた可能性がある。市の父親向け啓発事業等も意識変化を後押ししたと考えられる。今後は、啓発に加え、回答者の実感だけでなく、家事・育児時間や役割の偏りも確認し、負担が一方に集中しない実質的な子育てにつなげる取組を推進していく。	子ども・子育て支援に関する ニーズ調査	こども未来課

	成果指標		2026年度 目標値	2019年度 (プラン策定時) 現状値	2020年度 実績値	2021年度 実績値	2022年度 実績値	2023年度 実績値	2024年度 実績	2025年度 実績値	達成状況	2019年度 からの 改善状況	達成状況に関する分析 (要因・課題等)	出典	担当課
基本目標 3 地域全体で子ども・子育て・若者を支援するまちの実現【地域による支援】															
施策目標 1 地域全体で子ども・子育て・若者を支える環境づくり															
29	ファミリー・サポート・センター事業の会員数（援助を行う会員）		1,230人	1,071人	1,053人	1,075人	1,095人	1,117人	1,138人	1,159人	未達成	改善	目標値には達していないものの、プラン策定時と比較して向上している。援助を行う会員は5年間継続して増加しており、こどもの一時的な預かりや送迎などについて、子育て世帯のサポートが適切に実施できる体制が整っている。引き続き、援助を行う会員の確保が必要であるため、積極的な広報の実施や制度全体の見直し検討を行い、利用の促進を図る。	-	こども未来課
30	静岡市子育て支援団体連絡会に加入している支援団体の数		90団体	72団体	78団体	83団体	81団体	88団体	95団体	65団体	未達成	未改善	目標値には達しておらず、プラン策定時と比較しても減少している。なお、2025年度は会員の更新手続きにより団体数が減少しているが、新規会員の入会を随時受け付けるなど、子育て支援団体相互の交流促進に取り組んでいる。今後も、子育て支援団体の相互交流や連携を促進するとともに、新たな団体の加入につなげていく。	-	こども未来課
31	地域に気軽に相談できる人・場所があると答える人の割合【就学前児童・就学児童】	就学前児童	96.6%	96.3%	-	-	-	93.8%	-	-	未達成	未改善	目標値には達しておらず、プラン策定時と比較しても減少している。高い水準は維持しているものの、コロナ禍における対面交流や地域活動の縮小により、子育てサークル、近隣住民等との関係を築く機会が減った影響が残っている可能性がある。また、オンラインで相談・情報収集する機会が増えた一方、「地域に気軽に相談できる人・場所」としては認識されにくい面も考えられる。今後は、身近な相談先の再周知と、オンライン相談から地域の対面支援につなぐ仕組みに取り組んでいく。	子ども・子育て支援に関するニーズ調査	こども未来課
		就学児童	96.2%	94.0%	-	-	-	89.3%	-	-	未達成	未改善	目標値には達しておらず、プラン策定時と比較しても減少している。就学後は乳幼児健診や子育て支援センター等との定期的な接点が減り、保護者同士の関係も学年・学校行事等に左右されるため、地域の相談先を身近に感じにくくなる傾向が考えられる。加えて、コロナ禍による地域活動の縮小や相談のオンライン化が、対面で相談できる関係づくりに影響した可能性がある。今後は、学校・放課後児童クラブ・地域団体の連携により、相談先を繰り返し案内し、必要時に確実につなぐ取組を推進していく。	子ども・子育て支援に関するニーズ調査	こども未来課
32	困った時の相談機関を知っている児童・生徒（小中高）の割合		50.0%	49.2%	-	-	-	-	-	52.9%	達成	改善	目標値を達成しており、プラン策定時と比較しても増加している。策定時の49.2%から52.9%へと3.7ポイント上昇しているが、これは、各機関での広報が浸透しているからだと推測される。	こども・若者実態調査	こども若者応援課
33	地域の健全育成団体の役員・委員数		増加	2,845人	2,772人	2,761人	2,676人	2,631人	2,523人	2,459人	未達成	未改善	目標値には達しておらず、プラン策定時と比較しても減少している。こどもの数の減少に伴い各種活動が縮小傾向にあることや、小・中学校の統廃合により役員・委員数が減少したこと等が要因と考えられる。今後も、地域の健全育成活動が継続的に実施されるよう支援を行う。	-	こども若者応援課
34	ひきこもりサポーターの養成者数		49人	9人	32人	51人	66人	75人	84人	97人	達成	改善	目標値を達成しており、プラン策定時と比較して養成者数は大幅に増加している。周知啓発などによりひきこもりに関する世間の理解が高まり、支援に関心を抱く市民が増加していることが一因と考えられる。今後も、ひきこもりに関する理解促進を図るとともに、ひきこもりサポーターの養成に取り組む。	-	こども若者応援課

【注記】

※全国学力・学習状況調査を出典とする指標については、2020年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大及びそれに伴う全国的な臨時休校の影響を考慮し、同調査が中止されたため、実績値はありません。

※1 同調査において配偶者がいると回答した世帯を対象としています。

※2 不登校相談については、2025年度末までこども若者応援課（子ども・若者相談センター）で実施していましたが、機構改正により、2026年度から担当課が学校教育課（教育支援センター）に変更となりました。

静岡市子ども・子育て・若者プラン成果指標 達成・改善状況集計

令和7年度（2025年度）実績値に基づく集計 | 再掲を除く全42項目

件数サマリー	
指標数	34
項目数	42

※再掲の4項目を全集計から除外し、入力行ごとの42項目を達成状況・改善状況の判定対象としています。

達成状況			改善状況		
判定	件数	構成比	判定	件数	構成比
達成	18	42.9%	改善	21	50.0%
未達成	24	57.1%	未改善	17	40.5%
－（判定なし）	0	0.0%	現状維持	4	9.5%
空欄	0	0.0%	－（判定なし）	0	0.0%
			空欄	0	0.0%

集計ポイント
達成状況については、判定対象42項目中、達成 18件（42.9%）、未達成 24件（57.1%）です。
改善状況については、改善 21件（50.0%）、未改善 17件（40.5%）です。
判定なし・空欄は、達成状況 0件、改善状況 0件です。